



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 15 R6. 11. 01

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

鍛錬千日の行 勝負一瞬の行 —大谷翔平選手の活躍に「執念」を思う—

大谷とこの爽涼を生きている 吉次 薫 (日経新聞 10/26 投稿句)

この混濁の世に爽涼を感じさせる一句だ。これほどまでに大リーグが話題になることは今までなかったのではないか。大谷翔平選手のなせる業なのだろう。日々の活躍はホームラン、盗塁と喧^{かまびす}しかった。闘志をむき出しにする姿ややんちゃな側面も話題になった。

しかし、きっと彼はそれこそすさまじい練習をしてきたはずだ。体つきも日本にいたこととは比べ物にならない鋼^{はがね}そのもの。その努力は想像に難くない。

「鍛錬千日の行 勝負一瞬の行」。

これは「やまびこ打線」の愛称で親しまれていた、徳島県の池田高校野球部監督^{つたふみや}蔦文也さんが大事にした言葉。池田高校は私の高校時代、甲子園を沸かせていた四国の山の中の高校だ。

蔦監督 <https://www.nikkansports.com/>



1 打席のために 1000 日間の練習を積む。千日は約 3 年間。ここで受験も同じだというつもりはないが、100 回に 1 回かもしれない成功を目指して鍛錬するのがプロというもの。才能が集まるそのプロの世界においても、やがて優劣がつき、ドラフト 1 位の選手がほどなく戦力外通告を受けたり、育成枠からのし上がったり。その分かれ目にはある種の「執念」といったものがあるのかもしれない。

力はあるのにいい成績を残せない人がいる。それはなぜか。その理由の一つに「執念」というものがあるのではないかと思う。この「執念」は特訓や決戦の場面ではなく、むしろ日常に出る。

盗塁を試みてアウトを宣告されさっさとベンチに戻る選手の姿を見た。そのあと監督のリクエストでビデオ検証がなされ、セーフとなった。アウト宣告にさっさと引き下がるのは紳士的なものかもしれないが、欲がないと言えど欲がない。その選手のことを非難するわけではないが、その欲のなさが意外と人生そのものに関わってくるのではないかと思った。

あるプロ野球の内野手の言葉。「キャッチャーからピッチャーへの返球ミスに備え、毎回守備位置から離れてカバーに入る。プロではまず起きないミス。5 年に一度あるかどうか、いや一度も起きないかもしれないけど、自分が現役でいる限り、カバーを続ける」。

5 年に一度、100 回に一回のために何かを続けられること自体がスバラシイ能力であることには違いない。見習いたいものだ。

秋の夜長に鐘の音が聞こえたら —読書の秋—

今年の秋は短いようだ。そんな束の間の秋の夜長に勉強したり本を読んだり。窓越しに聞こえる虫の声は心地よいのだが、そんな時にどこか遠いところから鐘の音が聞こえてきたらどうする？ 今回はそんな話だ。

村上春樹の『騎士団長殺し』という小説の中に、主人公が住んでいる家の庭先から毎晩その鐘の音が聞こえてくるという展開が織り込まれている。鐘と言っても、除夜の鐘のような大きな音ではなく、小さな鐘、コーン、コーンといった感じ。

村上春樹は、その話を上田秋成という江戸後期の読本作家が書いた『春雨物語』を典拠に物語を進めているが、ここではそのもともとの『春雨物語』のあらすじを紹介する。



主人公は豪農の息子。学問好きな人で、夜中に一人で書を読んでいると、庭の隅の石の下から鐘の音のようなものが時折聞こえてくる。不思議に思って、あくる朝、人を使ってそこを掘らせてみると石のふたをした棺ひつぎのようなものがあった。それを開けると、中には肉を失い、干し魚のような痩せこけた人がある。ミイラだ。髪は膝まで伸びている。手だけが動いていてこんこんと鐘を打っている。その人は、その昔、永遠の悟りを開くために自ら死を選び、生きたまま棺に入れられ、埋葬された僧侶だった。これを「ぜんじょう禅定」という。即身成仏だ。おそらく、もともと立派な僧侶だったのだろう。その魂は願いどおりに涅槃の境地に達し、魂を失った肉体だけがあとに残されて生き続けてきたというわけだ…。

そのミイラになった身体は掘り起こされ、、、さてその後、そのミイラとなった僧侶はどうなったか、、、。物語はとても不思議な展開をみせる。

興味がわいた人は、ぜひ読んでみてほしい。わずか5～6ページの短編だが、きっと生きることの意味を深く考えさせられることだろう。

最近の若者は、本を読まなくとも SNS の投稿やネット記事は読んでいると言うかもしれない。しかし、SNS の刺激的な短文は瞬間的な怒りの感情などに結び付きやすいと言われている。腰を据えて本と向き合い、じっくり考える、落ち着いて物事を判断する、そんな時間を大切にしたい。

おばけ屋敷の“お化け”



ほとぼしる探究魂！ ー武雄市とのまちづくり参画事業 8 年目ー

23 日、武雄市役所にて「高校生のまちづくり参画事業」の報告会が開催され、1, 2 年生合わせて 64 名が小松政市長や松尾文雄教育長をはじめ、市職員の方々にその成果を報告した。取り組んだ内容は以下のとおり。

チーム	チーム名	活動概要
A	スマイルプロジェクト	食品ロスについて調査研究。放課後児童クラブ等で子どもたちに発信。
B	ウィンター	食生活改善推進委員会と連携し、郷土料理に武雄の特産物を加えたアレンジレシピを試作。
C	ひんやりスイーツプロジェクト HISUPURO	武雄温泉物産館と連携し、地元商品を使ったアレンジスイーツのレシピを考案、販売。
D	ワールドデザイン制作委員会	様々な人とアート作品を作り上げる企画を立ち上げ新幹線イベントの際に実施。
E	きゅうりプロジェクト	武雄産のキュウリを広く知ってもらう。物産祭りにて活動。
F	TAMAGO プロジェクト	武雄温泉街の各店舗の照会チラシを作成。観光客の回遊を目指す。
G	まちづくり TKG	国スポで武雄を訪れた観客にお勧め飲食スポットを載せたパンフレットを作成配布。
H	しんぞうばくばくハウス	朝日町スポーツフェスタでお化け屋敷を開設実施。

参加生徒は「地域の方や武雄市への観光客など、多くの方と交流ができ、自己存在感を味わえた」と満足そう。小松市長からは「高校生らしい発想がたいへん参考になる。ここで培った情熱を学校生活にも生かして」と激励していただいた。

※今回は紙面の都合で閑人閑話はお休みします。乞うご期待！

【当面の主な予定（11 月前半）】
2 日（土）学びの基礎診断（1・2 年）
県一斉模試（3 年）
2・3 年は 3 日まで
5 日（火）ビブリオバトル
9 日（土）個別大模試（3 年）
11 日（月）月セミ
13 日（水）総文祭総合開会式